

岩手の生協の今をお伝えする

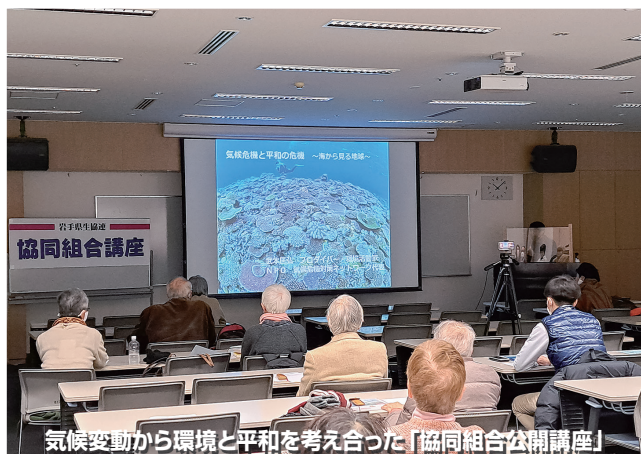
岩手の生協

VOL.61 2023.4

岩手県生活協同組合連合会

〒020-0690 岩手県滝沢市土沢220-3

☎019-684-2225 / 📠019-684-2227



気候変動から環境と平和を考え合った「協同組合公開講座」



フクシマを忘れるな! 原発回帰は許さない! 「さようなら原発集会」



安保関連3文書改定と原発回帰政策に反対! 県議会請願実施



核禁条約発効2年。日本も署名・批准を! 宣伝行動

特集

「環境と平和・海から見た地球」 ~気候正義と核廃絶平和運動~

戦争させない、原発からの脱却を求めて

~大軍拡・大增税、原発回帰政策に反対する取り組み~

■会員生協トピックス

- ・岩手県立大学生協
- ・岩手県高齢者福祉生協

■岩手県生協連トピックス

- ・劇場版「荒野に希望の灯をともす」すすめる 岩手の会結成
- ・「今の食料自給率では日本は飢餓に」いわて食・農ネット学習会・総会開催
- ・生協配達灯油1ℓあたり2.5円還元

「環境と平和・海から見た地球」

「気候正義と核廃絶平和運動」

2月7日に「協同組合公開講座」を開催し、オンラインを含め県内5生協ほか一般市民52人が参加しました。長いダイビングキャリアをもつ武本さんは、プラスチックゴミだらけの海、サンゴの白化など、海洋環境の劇的な変容を紹介。地球環境の危機的状況に対し、「一人ひとりが生活の中の当たり前のことから疑ってみる。生活者が社会を変えろ」という高い志を持ってほしい。知ることが希望」と訴えました。



講師
環境活動家
NPO気候危機対策
ネットワーク代表
武本匡弘さん

〈講演内容ダイジェスト〉



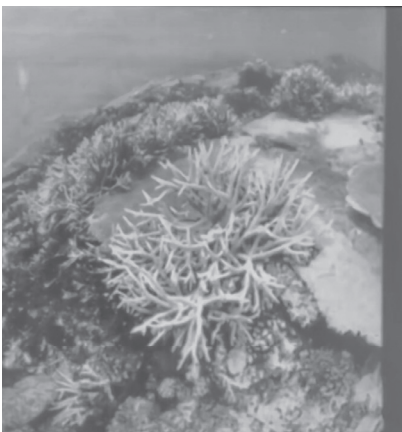
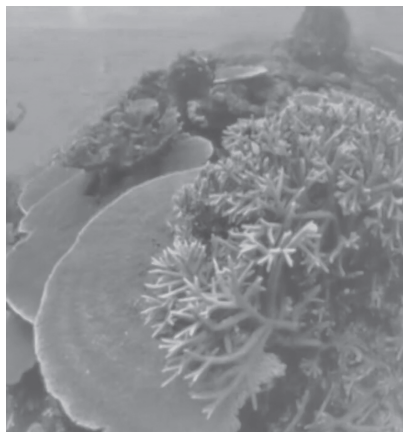
見逃し配信⇒ <https://youtu.be/Tnl3v4sqXHY>

●地球規模でのサンゴ白化現象

僕はダイビングキャリア45年、プロになり40年ぐらいです。最初の20年は綺麗な海が沢山あった。サンゴも綺麗な生物多様性に富んだ海が広がっていました。造礁サンゴ（テーブル珊瑚）がある見事な海を潜っていたんだけど、後半の20年間はとんでもないことがどんどん起きてきた。

珊瑚が地球規模で白くなってきた。この写真は1998年頃。この状況を「サンゴの白化」と言います。この1998年から99年にかけて、地球上のサンゴが真白に

なった。おそらく全体の6割から7割はサンゴが白くなっちゃった。サンゴは白くなったあとどうなるかと言うと、完全に「瓦礫化」、死ぬ運命になる。特に沖縄です。



●気候崩壊による海の異常な高水温

那覇沖は生物多様性に富んだ綺麗な海で、造礁サンゴも色々種類がありました。今はありません。

沖縄本島はサンゴの被度（現在海底を覆っている割合）が10%位と言われている。国連が少し前から予測値を出していて、それは地球規模でこのまま温暖化が進むと、2034年には白化が常態化する、というものでしたが、日本周辺海域では2024年に白化が常態化しサンゴがほとんど死滅していくと言っている。もう来々なんです。でも僕は、ずっとこれを見てきて、こうなるなと思っていました。

環境省もずっと調査していて石垣島での昨年出た結果ですが、2020年度の石垣島平均被度が11.5まで低下していて、2022年には白化が92.8%、石西礁湖（石垣島と西表島の間に広がる東西40km、南北30kmの日本最大のサンゴ礁）の白化がこんなになってしまった、ということ。

この原因は何か、それは気候変

動、地球温暖化という言い方で間違いはない。気候変動、つまり地球は暑くなっている、海は熱くなっている、ということです。

今、日本海側に豪雪をもたらしているのは日本海が異常な高水温を記録していて、ずいぶん前から研究者たちが警告を発していたが、この海水温の上昇が雲を作り、豪雪になっている。こう考えると日本列島は海から季節・気候を作っているのです。

だから地球全体の気温が上がるだけでなく、海水温の変化が気象を狂わせ、気候を崩壊に導いている。「気候崩壊」という言葉もある。英語ではClimate Breakdown。

●気候正義とは？

僕は科学者や研究者ではないが、この海の状態を見て「こんな大変な事になっているのなら、早く子どもたちや一般の人にこの事実を知らせたい」と、NPO活動を1999年から始めました。

実は僕はダイビング会社の経営

者だったので、30年以上NPO活動してきて、この活動と会社経営の両立ができなくなってきました。何故かという、子どもの目の前から未来がスーッと消えていくような気がして、「もうダメだ。中途半端に経営してられない」と思い切って会社経営を後輩社員に譲って環境活動一本で行こう、ということになりました。

その後、ヨットで風の力だけで自分で操船して2か月、長い時は70日間太平洋を航海しながら気候変動の兆しを知る、ということをやりました。そこから太平洋全体、カルビン諸島やグアム、サイパン、マーシャル諸島等を廻りました。その辺の島々は山も谷もなく海抜はせいぜい2m位しかなく、島はサンゴ礁でできているので、気候変動の影響をもろに受けています。

交流のあるマーシャル諸島の前大統領に会った時に、どんな島が削られ国土が水没していくから住めなくなるので難民申請している、という話を聞きました。「気候難民」という言葉は既にあるが、ここでやっと「気候正義」という言葉が出てきます。

気候正義 (Climate Justice)、というのは、「誰かを犠牲にしている私たちのくらしは、これで良いのか？」ということ。皆さんの

印象として正義と聞くと、正義の味方というイメージを持つかもしれないが、正義の対義語は悪ではなく「不正義」。つまり不公平・不公正という意味です。

●国家間と世代間の不正義

気候正義の視点で考えると、太平洋で暮らしている人、東南アジア、南米大陸の小国やアフリカ大陸の小国の多くの人たちは、私たちに比べると、ほとんどCO₂を出していない。二酸化炭素排出に義務を負わない人が犠牲になっている。ほんの10か国ほどの人々がバンバカとCO₂を出している。私たちはエアコンを使うし、車も乗り電気も沢山使っている。

これを考えると明らかに不正義である。「国家間の不正義」と言っている。今世界中で若者が立ち上がり、「大人、なんとかしろ」と持っているプラカードには「気候正義」とかいてある。何故かという、「今、あなたたち大人が国会で話していることは今の自分たち（議員）のことじゃないか。私たちの未来のことは何も話されていない！」と言って、気候ストライキをやっている。

昨年のアースデーの日は、ドイツで20万人の人が参加していた。ベルリンは5万人。そのぐらゐの人々が「気候正義！気候正

義！」と言っている。つまり、私たちがなんとかしないと子や孫やその先の世代の人たち・若者たちは未来がない。つまり、気候問題は人権問題である。

私たちは若者たちの人権を奪っている、と言って言い過ぎではないと思う。それが「世代間の不正義 (Climate Justice)」ということ。

日本では全然知られていないのですが、「気候正義」という言葉は、パリ協定の前文に書かれていて、世界中の人々のキャッチフレーズですが、何故日本に伝わっていないのか？欧米では気候正義という言葉がメディアに出ない日はないくらい。だから今日この講座に参加したみなさんは、是非覚えて帰って貰いたいと思います。『極地に近い』ということがあるが、特にEUはこの気候問題に危機感を持っている。

それを踏まえ、なんとかしないとイケないということで、世界中が1.5℃の上昇を抑えようと言っているが、既に1.1℃産業革命以来上がっているの、0.4℃しか猶予がない。なんとかしないと地球は「臨界期」を迎えると言われている。臨界期とは、英語でTipping Pointと言います、後戻りできなくなる、ということです。

●太平洋はプラごみだらけ

僕はヨットでの航海中に見てビックリしたことがあります。全く誰にも会わない、何も無い、大陸棚もないから魚も釣れない、鳥も飛んでこない。そんな場所でも朝から晩まで、ペットボトル等のプラスチックゴミだけはどこ海でも見る。太平洋の真ん中は、「ゴミだらけ」です。島に上陸してもゴミだらけ。ペットボトルも漁具もいっぱい、こういったゴミが太平洋に流れている。

地球全体の生物多様性が崩壊している事象としてサンゴの話をしました。この気候変動と海洋プラスチックの問題は別物ではない、ということをお分かって欲しい。プラスチックは化石資源、石油から作っているということ。石油から形成し形作っていく過程で、大量の熱を使うのでCO₂も大量に出す。

プラスチック製品は一度作ってしまうと、将来世代のツケになる一方なんです。気候問題と一緒に考えないと解決しない。しかもリサイクルしている、と書いてあるが、日本は全然リサイクルなんてやっていない。バンバカ燃やしている。

●プラスチックを買わされている私たち

私は、運動はしたたかに明るくやっけて行こうと思っています。「エコストア パラギ」といつて日本で最初の、「プラスチック・フリーストア」を作りました。

こういう店は欧米では街中で普通にある。1つはプラスチック製品を扱っていない、売っていないという事と、他に「ヌードストア」といつて、包まない、包装しないということ。それを日本でもやってみよう、ということ。女房に相談、息子2人もダイバー会社を辞めさせ、4人で店を立ち上げました。

自然に戻る歯ブラシやセルロース（100%植物由来）のスポンジ等ノンプラスチック生活用品の販売、生分解する洗剤やオーガニック商品の量り売り等を行っています。

大事なことは、「こんな物なくとも良いじゃない」という意見を出すこと。全部一度に止めることはできないでしょう。でも日本は過剰包装天国。例えばバナナ。プラスチック袋に入れて売っているのは日本だけで、他国は裸売り。袋の外に「バナナ」と書いているが、書いてなくてもみんな知ってますね。リングに座布団を履かせるのは何故ですか。納豆にプラ製小袋の醤油はいらない。家にある醤油を使えば良い。

こういう意見を出していくと企業も変わってくる。それにウクライナ危機などで物価が上がっている中で、「ここからコストダウンして」という話を配信していたら、こんな子どもが現れました。

その子は、買い物に行く度、アンケートに「プラ止めて下さい」「包装をあまりしないで下さい」と書きました。そうしていたら、一部店舗がバナナの裸売りコーナーをやり始めました。この子だけでなく、僕のセミナーに来ている人が「みんなやろう」と言っていてアンケート記入をしたら、小売業は消費者の動向に非常に敏感だから「やってみよう」ということになった。

消費者の義務は「買い物は投票」なので、「そういうものを買おう」という事をすれば良い。そうすると必ず変わる、と僕は信じています。EUはそうなっている。日本も多分そうなるだろう、と希望を持っています。

●私たちが変えていく志が大事

一人ひとりができる事で大事なことは、まず当たり前のことから疑ってみる。生活者が社会を変える、という高い志が大事。私たちが変えて行く、ということ。また、ひとりで勉強しても限界があり、今日のように集まって学

習することがとても大事なこと。そこには異論との出会いもある。市民グループ・生協等の団体に入り、会員や委員になったりし、自らその中に入って学習を続けていくことが大事です。

最終的には、国が変わっていく、社会経済システムが変わっていく事にならないと難しい。だから、気候政策を持った政党に投票することがこれからは本当に大事。ヨーロッパでは、右派も左派でも気候政策を持つていない政党はありません。それが無いと誰も投票してくれないからやっけていない。日本では、残念ながら「気候政策」を全く持つていないという政党が票を取っていますが。気候変動に対する運動している若者たち、市民たちがとても増えてきている。そういう人たちとの連帯が必要です。

「うちは」平和メイン「だから環境はちよつと」とか、「うちは」環境メイン「だから、平和とか政治的なことはうちはダメなんです」という時代もあったが、今は変わってきた。

特に環境活動している人たちは、軍事行動が大きく環境に関わってくる、という事を言い出している。ウクライナは正にそれなんです。

外国から資源を買っている日

本、そして私たちが大手電力会社から電気を買っている、ということとは、その金がロシアの鉄砲の弾やミサイルになりウクライナの子どもたちを殺しうるといふ事を考えなければいけない。

それは環境団体が言い出している「気候危機と平和の危機の連環」で全部繋がっている事を学習すべき、と僕は考えています。「連環」という言葉が大事。さっきのプラスチックと気候変動の話と同じだ、ということです。

●SDGsと日本国憲法は同じ

皆さん希望を持ちましょう。今、世界中の若者は「自分たちに未来がない現実」に対して「気候正義」と言いながら実はそれだけでは無い、ということに気付いている。

グレタさんを中心として、彼らは「誰かを犠牲にする社会システムが原因で、それが資本主義経済ではないか」と言い出している。気候変動や気候危機のことだけでなく「平和の危機」、ウクライナでは特にエネルギー問題にちゃんと声を上げようということで、EUの若者たちが声を上げ、ドイツでは20万人もの人々がストライキを国会前で行なった。「よし日本も頑張ろう。皆さんとともに僕も頑張ろう」と思っています。

僕は今、「SDGsと日本国憲法」



昨年12月に閣議決定された安保関連3文書改定に対し、若者を中心に強く反対の声をあげました。



●憲法改悪、軍拡、軍事費増
敵基地攻撃能力保有反対！
9条改憲NO! 全国市民アクション岩手の会（岩手県生協連ほか賛同130団体）で、1月20日に緊急集会を開催し、120人が参加。安保関連3文書の閣議決定や防衛費拡大に抗議しました。
幹事団体の代表や、市民からの怒りの1分スピーチも実施。「専守防衛の原則を大きく転換するもので憲法違反」「防衛費より社会保障の拡大を」などと訴え、盛岡市内をデモ行進し、市民にアピールしました。
また、市民アクション岩手の会では、「安保関連3文書」の閣議決定と軍事増強による戦争する国

家づくりの推進に強く反対する声明を発表しました。軍拡で緊張を高めるより、9条をいかに平和外交で世界平和を追求することが日本の役割です。

●東北3県連で声明を表明

1月27日に、岩手・宮城・福島3県生協連会長理事による「原発回帰への方針転換に反対し、原発に頼らないエネルギー政策を求める」共同声明を表明しました。

また、2月15日には、原発推進への政策転換に反対し、原発に頼らないエネルギー政策を求め、いわて生協が政府に意見を提出しました。

はほとんど同じだ、という事を強く訴えています。ちゃんと全条文を比べてみると、SDGsと日本国憲法は同じ事を書いている。
僕はSDGsも日本国憲法も概念は全く一緒だ、ということでは活動始めたら、小学校1年生とその

親、若いお母さんや最高齢92才の人までが集まるようになり、「非戦の誓い」憲法9条の記念碑を建立しよう、というグループが出来たんです。今年中に120万円集め皆で建てよう、と凄く盛り上がっています。

「気候問題・気候危機と平和の危機は連環している」と訴えていけば拡がる、という希望が僕にはちよつと見えてきました。初めて聞くことも色々多かったと思いますが、「知ることが希望」です。リサイクルの問題や他の問題もオン

ラインで「セミナーの実践編」をやっているの、そこでも皆さんと繋がって行きたいと思っています。
(文責：岩手県生協連)

戦争させない、原発からの脱却を求めて、大軍拡・大増税、原発回帰政策に反対する取り組み

●安保関連3文書改定撤回、原発回帰政策反対を県議会に請願



五日市王議長に請願書を手渡し、主旨を説明。



3月1日、「安保関連3文書改定の撤回と大軍拡・大増税の中止を求める請願」と、「原発回帰への方針転換に反対し、原発に頼らないエネルギー政策を求める請願」を岩手県議会に提出しました。

請願団体は「安保関連」は岩手県生協連を請願代表に、いわて生協、岩手県学校生協、岩手大学生協、盛岡医療生協ほか17団体、「原発回帰」は岩手県消団連を請願代表に、いわて生協、岩手県学校生協、盛岡医療生協ほか30団体。労働組合や市民団体も加わり、県議会議長に請願書を提出しました。

残念ながら、どちらも採決にはいたりませんでした。が、「安保関連」は僅差での採決状況でした。県民の関心を広げるよう訴えていくことが大事です。

●原発回帰反対！フクシマを忘れるな！さようなら原発集会開催

岩手県生協連ほか、いわて生協や盛岡医療生協、大学生協など48団体で構成する実行委員会（事務局：岩手県消団連）で、3月18日に「さようなら原発岩手県集会」を開催。170人が参加しました。

講師の龍谷大学政策学部教授の

大島堅一さんに、「原発回帰は許されない！政府が原発推進に舵を切る理由」という演題で講演いただきました。

大島さんは、電気料金値上げは化石燃料の高騰などが原因で原発停止とは関係ない、まして電力は逼迫していないと批判。「福島原発事故後の原発廃炉や放射性廃棄物処理の費用が膨大になり、その分電気料金に上積みされている」と強調し、原発は動かしても動かさなくてもコストがかなり経済的ではない、と述べました。

また、原発事故被害いわき市民訴訟原告団長で、浜通り医療生協元理事長の伊東達也さんからの手紙を会場で読み上げました。こうした訴訟で国の責任を認めようという判決を覆す運動を、と訴えました。

参加者からは、「具体的な数値をもとに論理的にやっぱ原発はいらないことがわかった」「電気料金のからくりがわかった。原発を動かすと電気料金が下がると宣伝しているが、プロパガンダだと思った」「未来のために反対の声をあげていきたい」「福島伊東さんの手紙には、『フクシマ』を繰り返させないという思い、腹の底からの怒りが伝わってきた」などの感想が寄せられました。

集会後、参加者は盛岡市内を行進

し、「原発はいらない」「フクシマを忘れるな」など、人々にアピールしました。



見逃し配信⇒ <https://youtu.be/bQEYYdGGcFA> または岩手県生協連 HP（本誌裏表紙下段 URL 掲載）内トピックスを参照。

岩手県立大学生生活協同組合

岩手県立大学生協は、2009年に設立された大学内の職域生協です。通常は購買店、食堂と大学ならではの学生のみさんの資格取得や就職支援を行うキャリア店と、新入生を中心にアパート紹介、学生総合共済のあっせんなどを行う「暮らしのサポートセンター」があります。

学生のサポートとして、特に新入生の入学準備をサポートするために、生協職員だけではなく、生協学生委員会のスタッフや、サポートセンターの学生スタッフ（新生活アドバイザー）が一緒になって、新入生サポートセンターを実施しています。学生スタッフは、アパートや教材のことだけでなく、住まいからの通学方法、大学生活のことまで幅広く新入生にアドバイスをし、新生活に対する不安を解消するための活動をしています。

今年コロナ禍以来、3年



新入生への生協オリエンテーションの様子

2021 年度実績 組合員数 3,331 人
事業高 376,602 千円

ぶりになる対面形式での新入生交流会（生協オリエンテーション）を生協学生委員会が実施しました。新入生の約半分にあたる300人ほどの新入生に参加いただきました。しばらくの間、コロナ禍でやむを得ずオンラインでの企画となっていました。新入生同士が直接対面し交流すること、皆さんの笑顔を見ることができました。

今後も生協の事業や活動を通じて、学生たちの経験や体験のきっかけとなるようなことを生協として引き続き提供できれば、と考えています。

岩手県高齢者福祉生活協同組合

私たちは、「元気な高齢者をもっと元気に」「寝たきりにならない、しない」「支えられる存在から社会を支える存在へ」をスローガンに、930人の組合員とともに、福祉活動を行っております。

生きがい文化のイベントにて、平泉散策1万歩と題して中尊寺の文化財、金色堂と平泉の文化遺産を、世界遺産に登録されてから改めて見学に行きました。金色堂見学の後、金で造った鶏の置物を埋藏したと言われている金鶏山に、途中でもう限界と感じながら登りました。毛越寺はアヤマが3分咲でした。

また、3回目の「盛岡ウォーキング」を行いました。盛岡南大橋をスタートし、北上川沿いに岩手山を正面に見ながら明治橋へ、御蔵下町史料館、清水町から盛岡城跡公園を通り、もりおか歴史文化館より中津川沿いを歩き上の橋まで、帰路は紺屋町の歴史的

建造物や古い商家などを見学し新しくなった盛岡バスセンターまで、約3時間8.2キロのコースでした。

新型コロナウイルスの関係で多くの参加者を集める事が出来ない中での開催でした。

今後も、地域に必要とされる福祉生協を目指していきたいと思っています。



盛岡市岩手銀行赤レンガ館川沿いにて



中尊寺金色堂前にて

2021 年度実績 組合員数 941 人
事業高 264,149 千円

■劇場版「荒野に希望の灯をともし すすめる岩手の会結成

アフガニスタンとパキスタンで35年にわたり、病や混乱そして干ばつに苦しむ人々に寄り添いながら命を救い、生きる手助けをしてきた医師・中村哲氏の軌跡を描いた映画をすすめようと、50人の呼びかけ人と岩手県生協連、岩手県消団連、いわて生協、労働組合や市民団体が事務局団体となり、3月30日に岩手の会が結成されました。

同日行った試写会では、「中村哲さんの言葉一つひとつに重みを感じた」「多くの人に観てほしい」等の感想が寄せられました。6月18日の盛岡上映を皮切りに、県内上映をすすめていきます。

◇盛岡上映会情報◇

6月18日(日) 岩手県民会館中ホール

①10:30 ②13:30 ③17:00

※①②各上映会後、谷津賢二監督のトークを行います。

前売:一般・シニア1,200円(当日1,500円)

大学・中高生 500円(当日同額)

小学生無料

プレイガイド:いわて生協(一部店舗除く)、
岩手県庁生協、プラザおでつて、
パルクアベニューカワトク



■今の食料自給率では日本は飢餓に 食・農ネット学習会・総会開催

岩手県生協連や岩手県消団連など17団体で構成する「いわて食・農ネット」は、3月24日に学習会と総会を開催。55人が参加しました。

学習会講師は、食ジャーナリストの小倉正行さんに依頼し、「今、私たちの食と農業に起こっていること」と題し講演。小倉さんは地球温暖化による異常現象やロシアのウクライナ侵略、円安による輸入食料の値上がりなどの要因で、食品価格が上がり家計を直撃している」と述べました。飼料・肥料価格の高騰で苦境に立つ農業と酪農の実態も説明し、海外依存から脱却して食料自給率引き上げが重要で、「海上封鎖されたら飢餓になる。食料安全保障の確立こそ最大の日本の安全保障」と訴えました。



「日本が餓死する緊急な問題であると改めて認識」「軍拡予算を増やすより、この危機的な状況を打開する予算こそきちんとすべき」等の参加者の感想。

また、総会では、22年度総括と23年度計画について議論し、食料危機やゲノム編集食品などについての集会や地域での学習会開催などを確認しました。

■生協配達灯油1ℓあたり2.5円 還元

今冬の灯油価格は、原油価格の高騰、円安により、1缶18ℓ2,000円で始まった大変なシーズンでした。

しかし、仲間づくりがすすみ組合員の利用がまとまったこと、さまざまな物価が上がっている中で少しでも組合員の家計を応援したいことから、2022年12月21日(2023年3月20日の3か月分を還元。1ℓあたり2.5円の割り戻しが可能になりました。

なお、県平均価格で同じ灯油量を利用するよりは、生協灯油を利用した方が約3,000円お安くまりました。

